



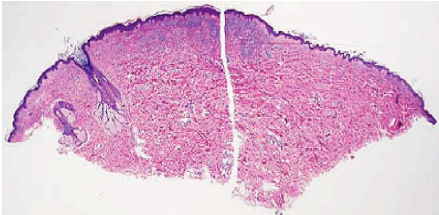
Granuloma annulare

46才、男性

生検部位：項部

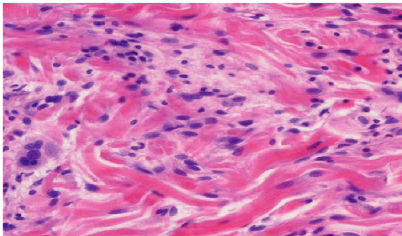
臨床診断：Granuloma annulare

病理診断：Granuloma annulare

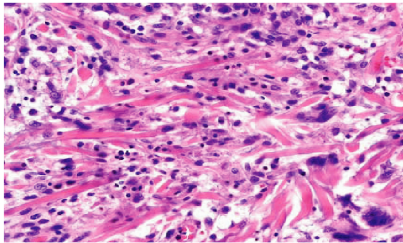


真皮上層から中層にかけてのびまん性の炎症性細胞浸潤が認められる。

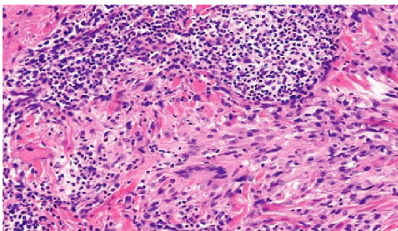
Granuloma annulare では以下の3つの炎症性細胞浸潤の pattern が出現する。



膠原線維間にリンパ球とともに組織球の疎な浸潤が認められ (interstitial pattern)、周囲には多核巨細胞も観察される。



組織球の柵状配列 (palisading pattern) の中心にはムチンの沈着が著明で、更に好中球も観察される。



多数の多核組織球が密に集簇している (epithelioid granuloma pattern)。

セミナー開催のお知らせ



皮膚病理指導医養成講座 (年6回連続講座 東京)
研修医を指導するために必要な皮膚病理学

第6回目 2月 5日 (土) : 腫瘍性皮膚疾患3
いずれも9時~17時
会場：山王病院 山王ホール (東京都港区)

ただいま、参加お申し込み受付中です。
ホームページ、E-mail、ファックスにてお申し込み下さい

今後のスケジュール

2005,1,20
勉強会：皮膚を見る会
場 所：札幌皮膚病理研究所

2005,1,27
勉強会：札幌医科大学カンファランス
場 所：札幌医科大学

2005,2,4
講 演：第2回臨床皮膚病理研究会
場 所：全日空ホテル (東京)
講演内容：～皮膚病理の常識と非常識～
1) Bowen's disease : Bowen病
2) Psoriasis vulgaris : 尋常性乾癬

2005,2,6
講 演：日本皮膚科学会東京支部 教育講習会
場 所：東京 新宿ヤクルトホール

◆ 年 末 年 始 業 務 の ご 案 内 ◆

まことに勝手ながら

本年は 12月29日 (水) まで

新年は 1月 4日 (火) より

平常業務となっております。

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018

札幌市北区北18条西3丁目2-21

TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com

Website www.sapporo-dermpath.com

札幌皮膚病理研究所 NEWS



恭賀新年

旧年中はひとかたならぬ御厚情にあずかり、誠にありがとうございました。

お陰様で、2004年は当研究所の皮膚病理報告書作成数も3万件を越えることができました。研修医（長期、短期含む）21名、研究所主催セミナー参加者のべ598名、そして発表論文数13編、学会発表数9回という実績を残すことができました。

本年も所員一丸となって皆様のご要望にお応えすべく努力して参る所存ですので、なお一層の御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

What's new?

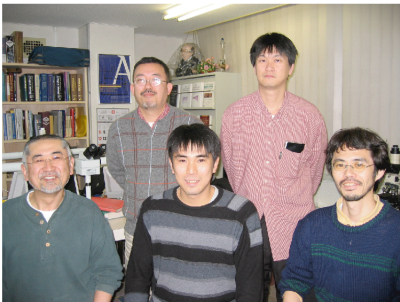
第5回皮膚病理指導医養成講座 (2004,12,11)

山王病院 山王ホールにて



今月の研修生をご紹介致します

岡本 武先生（海上自衛隊潜水医学実験隊）前列真中



皮膚病理コンサルテーションシステム

第二弾 ～札幌皮膚病理研究所の紹介～

1、沿革

当施設は病理学検査を目的とする登録衛生検査所であり、2001年5月に開業した、皮膚病理を専門とする医師がフルタイムで勤務し種々の業務を行っている。

2、業務内容

当施設の業務内容は、(1) 病理組織診断報告書の作成、(2) コンサルテーション受託、(3) セミナーや講演会の開催、(4) 学術活動と学術活動の援助、そして(5) 皮膚病理研修指導、である。

(1) 病理組織診断報告書の作成部門では、2003年の年間実績で20,772件、2004年6月までの6か月間で14,194件、そして直近の2004年6月は単月で3,153件の病理報告書を作成している。

(2) コンサルテーション受託部門では、2001年55件(8ヶ月)、2002年121件、2003年190件、2004年88件(5ヶ月)の実績がある。

(3) セミナーや講演会の開催部門では、2004年6月までの総受講者数はのべ915名である。2004年はすでに終了したのものも含め7種類、計15回のセミナーを開催予定である。

(4) 学術活動の援助部門では、医学雑誌への学術論文発表は46件、単行本の分担執筆は2件であった。学会活動の援助部門では学会発表のスライド作製受託は8件である。

(5) 皮膚病理研修指導部門は、3ヶ月間以上の長期研修医を6名、そして3ヶ月以下の短期研修医を21名受け入れている。

3、医師体制

常勤医師は皮膚科専門医(所長)1名と病理専門医1名、非常勤の嘱託医は2名で病理専門医1名と形成外科専門医1名である。(2004年6月現在)。

病理と臨床 Vol22 No11

「皮膚病理コンサルテーションシステム」より抜粋

◆ ホームページのご案内 ◆

10月1日より12月31日まで第6回診断クイズを開催いたしております。診断を予想して、ぜひご投稿ください。正解および順位発表は、1月15日となっております。

学会発表

学会名：第360回日本皮膚科学会北海道地方会

開催日：2004.12.4

発表者：福本隆也、井上智子、塩見達志、安齋眞一、木村鉄宣
演題名：被覆表皮にFolliculo-sebaceous inductionをともなったatrophic dermatofibromaの1例
発表形式：一般演題

発表者：安齋眞一、塩見達志、福本隆也、木村鉄宣、真鍋 求
演題名：尋常性疣贅の所見を伴った乳頭状汗管嚢胞状腺腫(syringocystadenoma papilliferum)の2例
発表形式：一般演題

新たに論文が掲載されました

村澤章子、木村鉄宣
臨床的に粉瘤(アテローマ)と診断された2,856例の病理組織学的検討
一病理組織検査の重要性について

日本皮膚科学会雑誌
114(12) : 1889-1897

初道誠、水橋啓一、木村鉄宣
Eosinophilic Cellulitisの1例

日本アレルギー学会
53(10) : 1079-1083